

日本共産党品川区議会議員

**菊地貞二**

週刊区政ニュース第329号

07年01月14日発行

## アンケートに商店主の怒り

# まちを壊した規制緩和

いま、働いても貧困から抜け出せないワーキングプアが社会問題になっていきます。派遣・請負、不払い残業、低賃金・不安定労働によって貧困と格差が拡大しました。これは、大企業がコスト削減のため、

商店主の方から「規制緩和」についての意

見をいただきました。この方は酒屋さんを

### 消えた商店街

正社員を非正規・不安定労働に大規模に置き換えたこと、そして政府が財界の要望にそつ

ので、人間の尊厳さえ奪う貧困と格差をさらに拡大させることになりません。



て労働分野での規制緩和を行ったことが元凶です。

いっそうの規制緩和を求める「財界ビジョン」によって引き起こされる現実、大企業はボロもうけ、労働者はボロぞうきんのような使い捨て、というもので、人間の尊厳さえ奪う貧困と格差をさらに拡大させることになりません。

## びっしりと書き込まれた生活相談と怒りの声

年末・年始にかけて配布したアンケートに廃業に追い込まれた店主の怒りが書き込まれていました。負担の増加に苦しむ高齢者、商売の存続をあきらめた事業主、将来の展望もなく生活せざるをえない青年など「格差と貧困」の構図が明確となっています。

営んでいましたが大規模量販店の進出で赤字が続き営業をあきらめました。

品川の商店街は、中小の工場が林立する中で、そこに働く労働者を対象に発展してきました。労働者の日常生活を支えるとともに、区内経済の循環と行政の支え手でもありました。また、祭りや地域コミュニティーを担う役割も果たして来ました。こうした商店街が、今、区内から姿を消そうとしているのです。



ある議員に話した所、答えは「消費者が安い商品を手に入れることが出来るのだから仕方がない」というものだったそうですがとんでもありません。



## 規制緩和が格差の要因

規制緩和路線がもたらしたのは、耐震偽装や村上ファンド事件などに見られるように、

大企業と資産家を肥え太らせる一方で、格差

と貧困をひどくし、生活をスタスタにしたことです。商店街の問題はこの流れと軸を同じにするものです。

昨年7月の規制改革会議中間答申は「規制緩和」路線の破たんと言いき詰まりを浮き彫り

にするものです。「規制改革が格差社会の要因となっている」との指

にするものです。「親子4人のくらしで400万円の年収が高いといえますか？」

## 残業代カットにも・

「親子4人のくらしで400万円の年収が高いといえますか？」

こんな書き込みもありました。

今回の答申は反省もなく、残業代ゼロの「ホワイトカラーエグゼンプション」(労働

摘から規制改革のすずめ方が問われている」と書かざるを得ませんでした。

オリックス会長の宮内義彦前議長が任期途中で辞任したことは、自らも利益を得て「改革利権」などと指摘され、国民との矛盾が避けられなくなったためでした。

時間規制の適用除外制度)導入など新たな規制緩和を盛り込みました。格差拡大、偽装請負など規制緩和による害悪が社会問題となっているのに、これに拍車をかけることは許されません。

## 無料法律相談会(生活相談は随時)

ところ すずらん通り事務所

日時 1月は次回掲載

午後6時〜8時



前日まで15742-6818までは電話を下さい。